

2026年度

人 文 社 会 学 部
共 創 学 部

筆 記 試 験

日 本 語

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をよく読んでください。

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 机の上には、受験票・鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り（電動式は除く）・時計（時計機能だけのもの）・眼鏡以外のものは置かないでください。
3. 問題・解答用紙の両方に受験番号・氏名（ローマ字・カタカナ）を必ず記入してください。提出の前には記入漏れがないか再度確認してください。
4. 問題は3問全問解答必須です。
5. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明・ページの落丁・乱丁に気付いた場合、また問題の内容について質問などのある場合には、手を挙げて監督者に知らせてください。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用して構いません。
7. 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
8. 配布された問題・解答用紙は試験終了後回収しますので、持ち帰らないでください。

◇携帯電話は、電源を切ったうえで鞆の中にしまってください。

志望学科・コースの右枠に○をつけてください

志望学科・コース				1年次入学	3年次編入学
人文社会学部	人間文化学科	福祉コース			
		メディア文化コース			
		グローバルコミュニケーションコース			
	経営学科	経営コース			
		トレーナー・スポーツ経営コース			
観光経営学科					
共創学部		デジタル共創学科			
受験番号			氏名	(ローマ字)	
				(カタカナ)	

【問題 1】 次の問いに答えなさい。

問 1 下の文の ふん のことばの読み方として最もよいものを選び、番号で答えなさい。

① くわしい説明は省略する。

- 1 せいりやく 2 せいらく 3 しょうらく 4 しょうりやく

② 11月3日は、祝日だ。

- 1 しゅうじつ 2 しゅくじつ 3 きゅうじつ 4 へいじつ

③ コップに水を注ぐ。

- 1 ささぐ 2 せせぐ 3 すすぐ 4 そそぐ

④ このコーヒーはとても薄い。

- 1 うすい 2 にがい 3 こい 4 しぶい

⑤ 親しい友人と出かける。

- 1 おやしい 2 ちかしい 3 したしい 4 やさしい

⑥ このレストランは深夜に営業している。

- 1 じんよ 2 しんよる 3 しんや 4 じんや

⑦ この店の接客はていねいだ。

- 1 せっかく 2 せっきやく 3 せつかく 4 せつきやく

⑧ 火事の原因はタバコだった。

- 1 げんいん 2 げいん 3 げいいん 4 げいんい

⑨ 空のビンが落ちている。

- 1 そら 2 くう 3 あき 4 から

問2 下の文の^{ぶん}_____のことばにあてはまる漢字として^{もっと}最もよいものを選び、^{えら}番号で^{ばんごう}答えなさい。

① 母は私がコップを割ったのではないかと、うたがっているようだ。

- 1 疑って 2 嫌って 3 叱って 4 怒って

② こころよい風が吹いている。

- 1 愉い 2 適い 3 喜い 4 快い

③ 留學生活は、きちょうな経験の連続だ。

- 1 貴挑な 2 奇挑な 3 貴重な 4 奇重な

④ 地図を見て、彼の家はだいたいこの近くだろうとけんとうをつけて出かけた。

- 1 見当 2 見討 3 検当 4 検討

⑤ 公園に落ちていたごみを拾っていた小学生にかんしんした。

- 1 寛心 2 感心 3 関心 4 歓心

⑥ 社内でのちいが上がり、給料も上がった。

- 1 知位 2 知居 3 地位 4 地居

問3 下の文の^{ぶん}_____に入ることばとして最もよいものを選び、番号で答えなさい。

① この辺の^{ちゅうしゃ}駐車_____は、どこもいっぱいだ。

- 1 地 2 所 3 園 4 場

② この曲を聞くと、学生時代のことが_____思い出される。

- 1 ^お惜しく 2 ^{おきな}幼く 3 心細く 4 ^{なつ}懐かしく

③ スピーチをするときは、大きい声で話すように_____いる。

- 1 意識して 2 ^{じかく}自覚して 3 実感して 4 認識して

④ アイロンをかけて、スカートの_____を^の伸ばす。

- 1 あな 2 きず 3 しわ 4 汚れ

⑤ 火事で家が焼けてしまい、_____失った。

- 1 めったに 2 おもわず 3 すでに 4 何もかも

⑥ _____した^{たいど}態度でスピーチをするのは、印象がよくない。

- 1 おどおど 2 どきどき 3 はきはき 4 ひやひや

⑦ 最近、恋をしているせいか、勉強に_____。

- 1 気が進まない 2 身が入らない 3 息が合わない 4 手が出ない

⑧ 父に一人暮らしをしたいとお願いしたら、何も言わずに_____くれた。

- 1 つぶやいて 2 はげまして 3 うなずいて 4 はりきって

⑨ 彼の家は経済的に苦しく、いつも_____服を着ている。

- 1 ^{かって}勝手な 2 ^{そまつ}粗末な 3 ^{てきど}適度な 4 ^{やつかい}厄介な

【問題2】 次の問いに答えなさい。

問1 下の文の ^{ぶん} _____ に入ることばとして最もよいものを選び、番号で答えなさい。

① この事故 _____ ご存じのことがありましたら、お話しください。

- 1 にあたり 2 にかけては 3 に関して 4 に対して

② 手伝ってくれた人には、お礼を言う _____。

- 1 ものだ 2 ものがある 3 かのようだ 4 ことか

③ この仕事が終わらない _____、帰れない。

- 1 上で 2 限りは 3 ものの 4 ばかりで

④ この会社で _____、毎日が楽しい。

- 1 働き始めるとなると 2 働き始めたきり
3 働き始めて以来 4 働き始めつつ

⑤ あの話し方 _____、彼は日本人ではなさそうだ。

- 1 によって 2 からして 3 はもとより 4 をはじめとして

⑥ 半年で3キロやせようと思っていたが、 _____ 太ってしまった。

- 1 やせたあげく 2 やせたところ
3 やせるにまでは 4 やせるどころか

⑦ 学校のマラソン大会は、教師の指導 ^{しどう} _____ 行われている。

- 1 のもとに 2 のうえに 3 のうちに 4 のすえに

⑧ 明日までにこの仕事を終わらせるためには、睡眠時間を削 ^{けず} _____。

- 1 ことはない 2 というものだ 3 よりほかない 4 にほかならない

⑨ テストも終わった____、みんなでカラオケに行こう。

- 1 ことだし 2 といえば 3 からは 4 のに応じて

⑩ 留学する____、情報を集めた。

- 1 最中に 2 かと思ったら 3 につけて 4 に際^{さい}して

⑪ その日の気温____、売り上げが変わる商品もある。

- 1 につれて 2 につき 3 次第^{しだい}で 4 を通じて

⑫ 今年の夏は旅行に行きたかったが、忙しくて休みが取れず、どこにも_____。

- 1 行けるはずだった 2 行けずにはいられなかった
3 行けずじまいだった 4 行けないものだろうか

⑬ この件は、社長に話を通さなければなりませんので、この場ではお答え_____。

- 1 しかねます 2 しかねません
3 しないおそれがあります 4 しないわけにはいきません

問2 次の文の ^{ぶん} ★ に入る ^{もっと} 最もよいものを ^{えら} ばんごう 番号で答えなさい。

^{もんだい}
(問題例)

^{こんばん}
今晚 ★ 行きます。

1 を 2 食べ 3 に 4 天ぷら

^{かいとう} ^{し かた}
(解答の仕方)

1. 正しい文はこうです。

^{こんばん}
今晚 ★ 行きます。

4 天ぷら 1 を 2 食べ 3 に

2. ★ に入る番号は2です。 解答用紙に2と書いてください。

① ^し 締め切りまで時間がないが、 ★ に進めない。

1 でなければ 2 を得てから 3 部長の許可 4 次の作業

② 仕事は忙しいが、 ★ 過ごしている。

1 家族と 2 時間の 3 限り 4 許す

③ ここから ★ 、他に比べるものがないくらいだ。

1 といったら 2 の美しさ 3 見える 4 景色

④ 何とかこのコンサートの ★ だろうか。

1 入れられない 2 チケットを 3 もの 4 手に

⑤ 深夜のアルバイトを _____ ★ _____ を、事故ですぐに壊
してしまった。

- 1 オートバイ 2 買った 3 まで 4 して

⑥ 大型商業施設の _____ ★ _____ 話し合いが続いている。

- 1 住民同士 2 めぐって 3 建設を 4 の

⑦ 息子は、母親 _____ ★ _____、出て行った。

- 1 もかまわず 2 呼んでいる 3 の 4 が

【問題3】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

学校の先生からも自己肯定感^{こうていかん}_{注(1)}を高めようと言われ、塾でも自己肯定感を高めようと言われる。ネット記事を見ても、自己肯定感はこちらすれば高められるといったアドバイスが出ている。

そうした世の中の空気ゆえに、だれもが自己肯定感を高めないといけないと思い込んでいるようだ。実際、文部科学省の通達^{つうたつ}もあり、教育現場では生徒の自己肯定感を高めることが重要な課題となっている。そして、生徒の自己肯定感を何とか高めてやらなくてはと思い、先生たちは生徒のことをよくほめるようになった。

〈A〉

でも、いくらほめても生徒たちの自己肯定感^{いっこう}は一向に_{注(2)}高まる気配がない。①_____、生徒の自己肯定感を高める役割を^{にな}担わされている先生自身、どうも自己肯定感が高くないようなのだ。そこで、生徒だけでなく先生の自己肯定感を高めるにはどうしたらよいかを検討されたりもしている。

自己肯定感の低い先生たちが、何とかして生徒たちの自己肯定感を高める役割を担わされ、どうしたらよいか②頭を悩ませている。なんだか滑稽^{こっけい}_{注(3)}ではないか。

〈B〉

そもそも世間で言われているような意味での自己肯定感の高い人物が、この日本の社会にどれだけいるのだろうか。さらに言えば、そのような意味での自己肯定感の高い人は、模範^{もはん}_{注(4)}にすべき人物なのだろうか。

〈C〉

自己肯定感という言葉が世間に広まったのは、ここ十数年のことであって、それ以前はそのような言葉はほとんど使われていなかった。自己肯定感を高めないといけないというような圧力もなかった。

〈D〉

僕は、むしろ先生と生徒の間に溝^{みぞ}_{注(5)}ができてしまい、心が触れ合いにくくなっているのではないかと考えてならない。生徒の気持ちを傷つけてはいけない、生徒をほめて自己肯定感を高めてあげなければならないなどと言われるため、先生は生徒に非常に気をつかうようになった。

ちょっと古いデータだが、小学5年生、中学1年生、中学3年生それぞれに、自分に満足しているかどうか、自分が好きかどうかを^{たず}尋ねる調査が、心理学者の遠藤毅^{えんどうたけし}によって行われている。その結果をみると、「自分に満足」という比率^{ひりつ}は、小学5年生では57.5%と過半数を占めるのに、中学1年生では30.0%と半分くらいに低下し、中学3年生では20.5%とさらに低下している。「自分が好き」という比率も、小学5年生では54.8%と過半数を占めるのに、中学1年生では45.0%と低下し、中学3年生になると32.5%とさらに低下している。

ここで注目すべきは、児童期^{じどうき}には多くの子が自己肯定しているのに、思春期^{ししゅんき}になると自己肯定する子が一気に少なくなるという傾向だ。

③このような傾向は、小学校高学年から中学校高学年にかけて次第にダメな人間になっていくということとを意味しているわけではない。これには、児童期から思春期にかけての認知能力^{にんち}の発達^{から}が絡んでいる。

認知能力が発達し、抽象的思考ができるようになることで、「こうありたい」「こんな自分になりたい」という理想の自己を高く掲げ^{かか}るようになり、それとの比較で現実の自分を厳しい目で見つめるようになる。自分自身に対して批判的なまなざしを向けるようになるため、自分に対する満足度が低下し、自分が嫌いという比率も高まることになるのだ。

思春期から青年期にかけて、ますます認知能力は発達し、自分の内面に批判的な目を向けながら、「どう生きるべきか」「どんなふうに生きるのが自分らしいのか」「いったい自分はどうしたいのか」「どうしたら納得のいく人生になっていくのか」などといったアイデンティティ^{注(6)}をめぐる問いとの格闘^{かくとう}が続くことになる。それは、今の自分に満足することができず、もっと納得のいく自分になりたいとの思い^{つらぬ}に貫かれたものであり、自分の現状に満足できないことが、より良い自分の探求^{たんきゅう}につながっていると言える。

自分の現状に納得できず、「何とかしなければ」ともがき苦しみながら自分の道を見つけ、軌道修正^{きどう}する。しばらくすると、「何か違う」と違和感^{さいな}に苛まれる^{注(7)}ようになり、改めてもがき苦しみながら何とか自分の人生を見つけ、軌道修正する。そうしたことの繰り返しが④自分の人生を歩む^{あゆ}ということだと思うが、思春期・青年期はとくにそうした自己形成^{いとな}の営み^{さか}が盛んな時期と言える。

自分の現状をそのまま受け入れ肯定するだけでは、なかなか自分なりに納得のいく人生になっていかない。自分の現状を肯定することで上辺^{うわべ}^{注(8)}だけの自己肯定感を維持^{いじ}しようとしても、ほんとうの自己肯定感は手に入らないだろう。そのような意味でも、安易に自己肯定^{うなが}を促す今の教育環境^{この}は好ましくないと云わざるを得ない。

このように考えてみると、このところのほめまくりの教育、自己肯定を促すばかりの教育は、非常に大きな問題を孕^{はら}んでいる^{注(9)}ことがわかるはずだ。いくらほめて良い気分^{みちび}にさせ、「自分はこれでいいんだ」といった思いに導き、上辺だけの自己肯定感を取り繕^{つくろ}った^{注(10)}としても、そんなことではほんとうの自己肯定感^{はぐく}は育まれない。

やたらほめまくり、自己肯定を促すばかりの教育環境は、自分の現状に疑問を抱き、ときに現状を否定し、今の自分を乗り越えていこうともがき苦しむ機会から、若者たちを遠ざけていることになる。それは、成長の機会を奪っていることに等しい。

そこからわかるのは、自分の現状に満足できないのは、けっして悪いことではなく、むしろ成長を強く求めている証^{あかし}だということである。

(榎本博明『自己肯定感が高くないとダメなのか』による)

- 注(1) 自己肯定感^{こうていかん}：自分の良いところも悪いところも受け入れ、認めること
- 注(2) 一向に^{いっこう まった}：全く
- 注(3) 滑稽^{こっけい}：ばかばかしくておかしいこと
- 注(4) 模範^{もはん}：見習うべき良い例
- 注(5) 溝^{みぞ}：ここでは「人と人との間の意見や感情に距離ができる」こと
- 注(6) アイデンティティ：自分が自分であるという感覚のこと
- 注(7) 苛まれる^{さいな}：精神的な苦痛や不安などに強く悩まされる状態のこと
- 注(8) 上辺^{うわべ}：物事の表面だけで中身や本質がないこと
- 注(9) 孕む^{はら}：ここでは「何かの要素が中に含まれている状態」のこと
- 注(10) 取り繕う^{つくろ}：実際の状況や感情を隠して良く見せようとする

問1 「①_____」に入る最もよい言葉を選び、番号で答えなさい。

- 1 だからこそ 2 それとも 3 そればかりか 4 その一方で

問2 「②頭を悩ませている」とあるが、それはなぜか、最もよいものを選び、番号で答えなさい。

- 1 ネットの中にある自己肯定感を高める方法には効果がないから。
- 2 生徒の自己肯定感を高めようとしてもなかなか高まらないから。
- 3 日本の社会の中で自己肯定感が高い人物を見つけることができないから。
- 4 自己肯定感という言葉が広く世間で知られるようになったから。

問3 「③このような傾向」とはどのような傾向か、最もよいものを選び、番号で答えなさい。

- 1 年齢が上がるにつれて自己肯定感が低くなる傾向
- 2 年齢が下がるにつれて自己肯定感が低くなる傾向
- 3 小学校高学年では「自分に満足」を選ぶ子どもが少ないという傾向
- 4 中学校高学年になると、ダメな人間が多くなる傾向

問4 「④自分の人生を歩む」とはどのような状態のことか、最もよいものを選び、番号で答えなさい。

- 1 自分の人生に納得し、満足した状態
- 2 自分の人生に納得せず、満足できないままの状態
- 3 自分の人生に納得し、維持しようと努力する状態
- 4 自分の人生に納得せず、良くしようと努力する状態

問5 次の段落が入る最もよいところを〈A〉から〈D〉の中から選び、番号で答えなさい。

ところが、教育界に自己肯定感という言葉が広まり、生徒の自己肯定感を高めなければと
いった圧力が先生に重くのしかかるようになった。それによって先生と生徒の関係に^{この}好まし
い変化が生じただろうか。

- 1 〈A〉 2 〈B〉 3 〈C〉 4 〈D〉

問6 この文章の中で筆者が言いたいことは何か、最もよいものを選び、番号で答えなさい。

- 1 ほんとうの自己肯定感を手に入れるためには、児童期の過ごし方が大事である。
- 2 自分の現状を受け入れ、肯定すれば、納得のいく人生になる。
- 3 ただほめるだけの教育では、ほんとうの自己肯定感を手に入れることはできない。
- 4 自分の現状に満足できないという状態が続くと、人は成長することができない。

